



元氣と夢を育む真鍋小学校

学校便り No. 6

土浦市立真鍋小学校（小中一貫校）

令和5年12月20日（火）

文責 近藤 恒重

「あいさつは心をつなぐ合い言葉」

早いものでもう今年もあとわずか。本当に「1年が経つのは早いな」と思っています。令和5年はみなさんにとってどんな年でしたか？

さて、少しさかのぼりますが、11月15日（水）には今年度2回目の二中地区あいさつ運動が行われました。真鍋小の児童代表、二中、土浦一高、同附属中の生徒代表、そして真鍋ブロックの青少年相談員さんや民生委員さんも参加してくださり、真鍋小、二中、一高のそれぞれの門付近で登校する児童生徒にあいさつを呼びかけました。小中高が近接する二中地区の特性を生かした活動であると思います。今後も継続して行い、二中地区で学ぶ児童生徒そして住民の皆様の心をつなぐあいさつができるようになることを目指していきます。



2年生も楽しんでできました

インフルエンザの流行で延期になっていた2年生の遠足が12月13日（水）に行われました。「12月になってからの遠足？」と違和感を感じていましたが、この時期に遠足を実施する学校はなく、アクアワールド内のグループでの見学もスムーズに行われました。また、館内の展示やイルカやアシカのショーもクリスマス仕様になっていて、とても楽しめたと好評でした。これまでの考え方を変えて行く必要性を改めて感じました。学校では来年の行事を検討する時期なっています。行事の目的を達成するとともに、子ども達が楽しむことができ、思い出に残る行事を企画していきたいと思っています。



校長室より



12月1日（金）に学校運営協議会が開催されました。今年度2回目の開催でしたが、今回は「学校における働き方改革の実効性の向上について」というテーマで話し合いを行いました。何やら難しいテーマですが、わかりやすく言うと、教員の働き方改革は子どもと向き合う時間を多く確保しようというものです。教員だけでこれまでたくさんの時間をかけて行っていたことを、地域の皆様のお力を借りながら、例えば半分の時間で行うことができれば、教員が子ども達と心身ともに健康で向き合うことができるであろう、そのために地域の皆様にどんなお手伝いをしていただけるかという話し合いでした。これまでは、保護者の皆様にお手伝いしていただき、ミシンの実習等は行ってきました。委員さんの中に、6年生の家庭科のミシンの授業にお手伝いくださった方がおられ、その委員さんから、教員一人で教えるより教員の負担も減り、技能の向上にもつながっているのではないかという話がありました。地域をもっと見渡せば、実習を中心とする授業や、地域を理解する授業、様々な職業を知る授業等でお手伝いしていただける方、学年の親子の集い等の講師をしていただける方はたくさんいるだろう。学校から「こういう方の力を借りたい」という要望があれば、学校運営協議会でも該当する方にお声かけしていこうということになりました。地域の皆様にご協力をいただきながら、子ども達のためを第一に考え、そして教職員の心身の健康を考え、学校の教育活動を進めてまいりたいと思います。今後教育計画を立てる中で、「必要な力」が見えてくると思います。地域の皆様、保護者の皆様、お声がかかった際には、ご協力お願いいたします。